

これから始まる物語はフィクションです。

実在する人物名、団体名、その他諸々はきつと偽物のはずです。

まあ、これもフィクションなんですからどね。

それでは、舞台の幕開けです！

とまあ、そんなことを言いましたが急にねえ、出来るわけなかくうに。
だから、きちんと考えました。

なので、もう一回。

これから始まる物語はフィクションです。

実じやい人物名、団体名、その他諸々はにしえものでえす。

まあ、これもフィクションなんですからどね。

それでは、舞台の幕開けです！

嘩んだー！ 恥ずかしい！ どうしましょう！

「そんなときは口ナミンを飲むんだ！」
はい！

「渡されたロマミン！ 貴様の力は受け取った！ お前の詩は無駄にはしないぜ！」
知らんがな。

ということ、もう一回！

これから始まる物語はフィクションでした。

実在はするんですけど、やっぱり人物名とか、団体名とかは、更にその他諸々は偽物なんだろうね。

まあ、これもフィクションなんですけど！

それでは、舞台の幕開けです！

「ちよつといいかな？」

「監督？ どうしましたか？」

「なんで間違えたのに途中でやめないの？」

「え？ だって、チーフマネージャーが言っていたんですよ。途中で終わる人は人以下って」

「いや、それはいいんだが、まあ、仕方ないこと言うんだが」

「なんででしょう？」

「あと一回しか余裕というものがないのだよ」

「な、なんだってー！」

つまりはこういう物語だったんですよ。

フィクションだろうがノンフィクションだろうが、
実在する存在なんてどうでもいいんです。
だって。

これもフィクションなんですから。

それでは、舞台の幕は閉じられました。

めでたしめでたし。